

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000089		
法人名	株式会社ユーアンドエヌ		
事業所名	グループホームいきいきの家くりもと		
所在地	千葉県香取市高萩765-1		
自己評価作成日	平成25年3月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで、緑に囲まれた四季折々の美しい環境の中に『グループホームいきいきの家くりもと』があります。木造平屋建てで、施設内は全面バリアフリーになっており、入居者が自由に過ごされています。希望のかかりつけ医への受診支援も可能ですが、訪問診療・訪問歯科・訪問看護が実施され、日々体調管理に努めています。職員全員がおもてなしの心と、一人ひとりに寄り添う介護に努め、和気藹々と楽しくあたたかな施設づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいきいきの家くりもと」は、「あやめ」と「あじさい」の2ユニットがある平屋造りの施設である。施設内は全面バリアフリーで、リビングには床暖房を設置して入居者が居心地良く生活出来るよう配慮されている。また、リビングには大きな窓があり、四季折々の風景を楽しむ事が出来、明るく、解放感にあふれた場所となっている。庭を活用し、散歩・お茶会・家庭菜園を行う等、入居者の戸外での楽しみが増し、生活活性化に繋がっている。外部研修へは職員全員が参加できるように年間計画が作成されており、職員は施設理念のもと、質の高いサービスの提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時の職員の意見を集約し、ホーム独自のケア・理念・方針を作り玄関先に掲げ、ホームの方向性を示すものとして表示し取り組んでいる。	施設独自の理念を掲げており、理念を明文化し、施設内に掲示している。会議や研修にて全職員に理念の周知・確認を行い、理念に基づいたサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動や地域行事へ積極的に参加している。地域の老人会(ふれあいサロン)に参加し交流を図ったり、散歩や近所の商店に買い物に行った時等挨拶を交わしている。	地域住民とは買い物や散歩時に気軽に挨拶を交わしたり、おすそ分けを頂く等、関係作りがなされている。町内会に加入していると共に、地域行事への参加や地域ボランティアの受入れ等、地域との交流を深めている。運営推進会議への地域住民の参加もあり、施設の理解促進や協力体制の構築にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンへの参加時や、運営推進会議等で地域の方々に認知症の理解や支援の方法など話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議により、問題点や不足している部分等が明確化されるため、サービスへの向上に活かしている。	市役所職員・民生委員・町会長・入居者家族・職員等を構成員として、年2回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進とサービスの質の向上に活かしている。	今後は運営推進会議の開催回数を増やし、家族と信頼関係を深めながら、会議への理解・出席率の向上を図ると共に、地域と連携強化の場として活用される事を今後期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に対して、業務における相談や報告を随時行い、また市主催の会議に参加し、会議を通じて市との情報交換を行っている。	日頃から市とは、施設運営全般に関わる報告や相談等を行うと共に、運営推進会議を通じて協力関係が築かれている。また、市主催の会議・研修会・勉強会等に積極的に参加しており、市との意見・情報交換を行う等、連携が図られている。他に、香取市地域密着型サービス連絡会を通じて、市と他の事業所が共に地域の介護サービスの質の向上に向け取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームいきいきの家くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に、身体拘束廃止宣言を掲示し、職員ミーティングやマニュアル整備・研修を行い身体拘束廃止に努めている。	内部・外部研修が実施されていると共に、マニュアルが整備されており、全職員が身体拘束排除における意義を理解し、身体拘束のないケアを目指している。施設の玄関は日中施錠せず、職員の見守りや声掛け等で対応し、入居者の安心・安全に配慮された自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等の研修に参加し、職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、権利擁護等の相談は無いが、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族がなっとく出来るまで重要事項を説明している。その理解を得たうえで契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、苦情相談窓口があることを、契約時に伝え、家族の面会時や電話連絡時に意見要望を伺い、早急に対処できるよう心掛けている。	意見箱・面会時・電話連絡時・運営推進会議等を通して、家族の意見や要望を直接確認している。また、意見や要望等を気軽に話せる関係性の構築にも努めている。挙げた意見・要望等は会議にて検討を図り、日々のケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部運営による面接を定期的実施。日常業務において、管理者が職員と情報交換できる環境にある。	定期的に会議を開催し、職員からのサービスや運営に対する意見や提案等を確認している。また、法人や管理者が定期的に職員の意見や要望を個別に確認する等、働きやすい職場の環境整備に努めている。定期的に内部研修が実施されていると共に、外部研修も職員全員が参加できるように配慮しており、年間計画に基づいた人材育成に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームいきいきの家くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部運営のよる面接を行い、職員個々の意見を取り入れている。また、勤務希望を聞いて、働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、必要事項に応じて参加している。内部研修においては、系列病院の研修に積極的に参加し、研修資料の掲示をして職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネ会議、グループホーム会に参加しネットワーク作りやサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学・面談を行い本人家族より情報収集し、入居後も要望などに応え、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際に、不安や困っている事を伺って、十分説明して信頼関係を築けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の要望を聞き、その都度説明しており、より良いサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の人権を尊重すると共に、お互いに学び得ることも多く、信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、お互いに相談しながら支えあう関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解や協力に基づき、自宅への帰宅、希望された場所への外出等を行っている。電話をかけた、かかってきたりする事もある	入居者一人ひとりの希望・生活歴・習慣等を尊重し、馴染みの場所への外出を支援を行っている。家族との外出・外泊は自由となっていると共に、施設行事へ家族が気軽に参加できるよう配慮する等、家族との関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がより良い関係が築けるように、席の配置にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅へ帰った後の、サービス提供等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族より、日常生活についての希望を伺い、それに沿う様に支援を行っている。	入居時の面接で本人や家族の意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、病院や他の介護サービス事業所等からの情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は、日頃の会話や様子観察により、入居者一人ひとりの意向の把握に努め、その人らしい生活が送れるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人家族から生活歴等伺い記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを考えながら、状況の変化の把握に努める。		

【千葉県】グループホームいきいきの家くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族要望を伺い、ケアカンファレンスなどで話し合いを定期的に行い、介護計画の作成を行っている。作成後は家族に了承を得ている。	入居者の担当が決められており、担当職員が中心となり、情報の収集及び共有に努めている。入居者及び家族の意向を踏まえた上で、職員間で意見交換や検討を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標の達成状況を確認すると共に、必要に応じて介護計画の見直しが行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況を毎日記録し、状況変化の把握に努めている。また、申し送りノートも活用し、実践やケア計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿うように、状況に応じた対応ができるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問、消防署立ち合いの避難訓練を実施し交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医の受診が可能で、希望に応じて職員が付き添い支援をしている。また、内科・歯科の往診、訪問看護も実施している。	希望のかかりつけ医への受診が可能になっており、希望に応じて職員による通院の付き添い支援が行われている。協力病院を設置し、内科医及び歯科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。また、緊急時・急変時における24時間体制での協力も確保されており、入居者・家族・職員の不安軽減に繋がっている。他に、訪問看護師による健康管理・服薬管理・相談対応も行なわれており、状態変化に対する迅速な対応が図られている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を記録し、訪問看護時に看護師に伝え相談し指示を受けている。必要に応じ協力病院などに受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院とも経過状況について密に連絡をとり、退院に向けての相談もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期における指針・対応方法等説明し同意を得ている。その後も家族と相談し、本人・家族の意向にそった支援ができるよう体制を整えている。	重度化や終末期における施設の対応・方針を定めており、契約時に家族に説明し、同意を得ている。重度化・終末期においては、家族の意向の再確認を行い、医師や看護師による24時間の対応や医療関係機関との連携を図る等、施設としてできる限りの支援が行えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の仕方について、研修等で学び指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、年2回の避難訓練を実施。スプリンクラー・火災通報装置等設置し災害時における対策をしている。	定期的に、夜間想定を含めた消防避難訓練を実施している。また、火災や地震に備えた設備環境やマニュアルの整備、食品等の備蓄がなされており、適切な災害対策がなされている。また、地域の方々には運営推進会議等を通して、施設での消防避難訓練の協力も呼びかけており、地域との協力体制の構築にも取り組んでいる。他には、地震災害等を想定したハザードマップも備えており、入居者や地域住民の安全の把握も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室には鍵が設置されており、プライバシーに配慮している。また、接遇研修を実施し職員の意識を高めている。	研修の実施やマニュアルの整備を行い、入居者一人ひとりの尊厳に配慮した接遇に努めている。また、定期的に研修等を実施し、全職員への指導・徹底を図っており、全職員は入居者一人ひとりの言葉使いや介助方法等に配慮しながら、日々のサービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、自由に日常生活を送れるようにコミュニケーションを図り自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活にあった暮らし方を把握し、個々に適した満足感が得られるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、身だしなみができるようにしている。意思表示が困難な場合は、家族に自宅にいた時と同じおしゃれができるようにしている。定期的に美容室も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付け等共同で行っている。月に数回フリーメニューにし利用者の希望を取り入れた食事を提供している。また、家庭菜園で栽培した野菜を活用したりもしている。	入居者の希望やの能力に応じて、食事の準備から片付けまでの作業を職員と共同で行っている。献立や食材は専門の業者に委託しており、栄養バランスに配慮された食事が提供されている。朝食・誕生会・行事食においては、入居者の希望や旬の食材・おすそ分けの食材等を取り入れ、季節感や雰囲気を楽しめる様な食事提供がなされている。その他、外食会も実施されており、入居者の食の楽しみを広げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分をチェック表にて管理。食欲のない方には、高カロリー栄養ドリンクやおやつを用意している。		

【千葉県】グループホームいきいきの家くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄リズムを把握し誘導・声掛けをしている。	排泄チェックリストを活用しながら、個々の排泄パターンを把握し、適切な排泄の支援が行われている。また、入居者一人ひとりに合わせた、声掛け・誘導・ポータブルトイレの活用等、身体状況に配慮しながら排泄の自立を支援している。必要に応じて医師や看護師と相談すると共に、日々の運動や食材の工夫を行う等、適切な排泄習慣の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のリハビリ運動や、歩行練習、嚥下体操を実施し予防している。また、水分摂取量等注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人ゆっくり入浴できるよう、希望に沿った入浴に努めている。必要に応じて、足浴や清拭も実施している。	入居者の希望や体調に応じて、日時や回数等の調整をし、柔軟な入浴支援が行われている。必要に応じて部分浴・シャワー浴・清拭等が実施されており、入居者の清潔保持にも努めている。脱衣所のトイレの設置やリフト浴の設備等、浴室環境が整備されており、身体状況に合わせた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の熟睡パターンに合わせて、休息して頂いている。布団干し、乾燥機を利用し寝具の清潔にも気を配り、気持ちよく寝れる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用を、処方箋等で確認している。服用時は職員2名で確認しながら、誤薬・飲み忘れのないよう努めている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来るとこと出来ないことを見極め、一人一人が自分の役割をもち生活されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や、テラスでのお茶会・ドライブ・買物など利用者の要望に応じて行っている。	日頃から、入居者の希望・体調に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出を実施している。定期的に外出行事を企画・実施すると共に、同グループの施設への訪問等も行われており、施設外の人との交流も支援している。庭を活用しての散歩やお茶飲みを行う等、入居者が自由に戸外での活動を楽しむ事ができ、生活活性化が図られるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から、預り金として職員が管理しているが、希望で本人が使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で、家族や友人への電話が自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は全面バリアフリーとなっており、リビングには自由にくつろげるよう、ソファや和室スペースを確保。また、四季折々の飾りつけや行事写真を掲示し楽しめるよう工夫している。	施設内はバリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。また、ソファや和室スペースも配置されており、入居者が思い思いに過ごせるよう配慮している。施設の随所に、写真や季節感を感じる装飾がなされており、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫されている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家くりもと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースである、リビングには4人がけのソファや和室があり、自由に過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等の持込も可能。個室でのプライバシーも配慮している。	入居者・家族の希望に応じた居室づくりが可能になっており、居心地良く生活ができるように心掛けている。各居室に鍵が設置されており、プライバシーが確保されていると共に、エアコンも設置され、適切な空調管理が行われており、快適に過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーにより、安全面に配慮し、共有スペースは、目の行き届くよう工夫している。		